



秋田県立男鹿工業高等学校 中期ビジョン(5か年計画) (平成29年度 修正版)

本校が目指す5年後の姿(具体的な目標)

1 学校の現状や課題

本校は昭和56年に創立され、時代の変化に対応するための学科改編等により、現在は自動車に関する選択授業ができる「機械科」、秋田県で唯一の「電気電子科」、及び「設備システム科」において特色ある教育活動を展開している。

本校の現状及び課題は次のことが挙げられる。

- (1) 多種多様な進路希望への対応において、100%の進路決定率を継続している。
- (2) 高い技術を求められる各種競技会やコンテストへの出場を目指す生徒を育てることが課題である。
- (3) 企業で必要とされる資格や検定に挑戦する生徒が多い。
- (4) 部活動への高い加入率により、東北大会や全国大会などの上位大会出場を目指している。
- (5) 地域の中学生が入学したいと思えるような、学校づくりの工夫が課題である。
- (6) 就職・進学に強く専門高校として優れた学校であることを、どのように具体的にアピールしていくかが課題である。
- (7) 生徒会や部活動において、リーダーとなる生徒を育てることが課題である。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

第七次秋田県高等学校総合整備計画において、男鹿潟上南秋地区の統合等再編整備構想計画が提示された。統合対象は男鹿地区の高校2校であり、このことも視野に入れ、本校の教育目標である「創意実践」を体現し、社会を生き抜くたくましさ、創造的で実践力のある生徒育成をアピールし、地元地区においてはもちろんであるが、秋田県になくてはならない学校づくりを目指していく。

また、今後少子化が加速化していく中で、地元地区の中学校卒業者の予測では平成28年度の694名から10年後の平成37年度には475名と激減することが予想される。このことから、近い将来、ものづくりの基盤を支える若手の人材が不足することが予想され、本校の存在意義が重視されると考えられる。

3 目指す方向性や学校像

工業高校を取り巻く状況は、経済状況の不透明感により今後も厳しいと考えられるが、地域に必要な人材の育成は、不変の課題である。よって、以下の取組を実践していく。

- (1) 地域の教育資源(男鹿半島・大潟ジオパーク、水上スキー場、パラグライダー、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、水力発電等)を活用し観光・レジャー産業・国際交流において、新しい産業の起業ができる人材を育成し、ふるさとの定住につなげていく。
- (2) 就職・進学の両面に強い教育活動を展開し、産業社会の変化に適切に対応できるたくましい人間の育成を図るために、基礎・基本の学力を身に付けさせる。現在は、

- 就職希望者が多いことから、社会で活躍できる公共性を高めることに重点を置く。
- (3) 「ものづくり教育」を通して、ものづくりに対する高い技術や技能を育成する。
 - (4) 地域の産学官との交流活動を積極的に行い、本校への興味や関心を高めてもらう。
 - (5) 最先端技術に関する興味関心を高めるとともに、課題研究においてレベルの高い研究を行う。
 - (6) インターンシップを推進し大学及び企業との連携を深め、キャリア教育の充実を図る。
 - (7) 部活動や各種ものづくりコンテストなどの活動を通して、自ら考え、対応できる実践的な人材を育成する。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

5年後の「ものづくり人材育成」の実現に向けて、以下のことを達成目標として取り組んでいく。

- (1) 就職及び進学決定率100%の継続維持し、県内就職率75%以上を目指す。
- (2) 各種ものづくりコンテストの上位入賞及び全国大会出場を目指す。
- (3) 長期インターンシップ参加者を複数とすることを旨とする。
- (4) 国家資格取得の推奨及び資格取得率の向上を目指す。

具体的な取組等

5か年のビジョン実現のための具体的方策として以下のことに取り組んでいく。

- (1) 興味・関心及び進路希望に応じた教育課程の編成や少人数学習を実施し、基礎基本の習得を徹底し、ものづくりへの興味・関心を高めたり、各専門科目間の知識・技術に関連させた授業を展開する。
- (2) 進路活動や資格・検定取得のための全体指導及び個別指導を徹底して行い、資格取得の向上や、進路実現のサポートを図る。
- (3) 地域に根ざした学校を目指し、本校の特徴である工業教育の火を絶やさないようにするため、学校や地域のリーダーとなる生徒を育成する。
- (4) 地域の行事、運動会などに参加をしたり、男鹿らしい校内行事を取り入れて、生徒が学校に誇りを持ち、充実感、達成感を感じられる工夫をする。
- (5) 地元で航空機に関わる企業が誘致され、今後秋田県で推奨されていく航空機産業教育を視野に入れ、各産業界が求める高度な専門性を有する人材の育成に対応する。また、このことに対応できる教員を育成するために、先端技術の各種研修会や企業等への研修の参加を勧める。
- (6) 長期インターンシップを取り入れ、勤労観や職業観の育成と、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地元企業の理解を深める。また、ものづくりに夢や誇りを持たせる。
- (7) 地域の小・中学校との連携を図り、「ものづくり教室や体験実習」、「出前授業」などを通して、ものづくりに対する興味・関心を高めるとともに、工業高校の学習内容の理解を深めてもらう。また、技術ボランティアを通して地域との連携を一層図る。
- (8) 産業教育連絡協議会の参加形態や運営等を更に充実させ、学校の教育活動を広く発信するとともに、地域全体で人材育成に取り組む体制を確立する。
- (9) 生徒会や部活動、各種コンテストなど、生徒が主体的に活躍できるよう学校全体で支援し、活動を活性化する。